

第150回 近畿産科婦人科学会学術集会
教育セミナー5

卵巣癌マーカーTFPI2の リアルワールドにおけるデータ

座長

伊藤 公彦先生

関西ろうさい病院 副院長, 産婦人科 部長, 遺伝子診療科 部長

演者

川口 龍二先生

奈良県立医科大学 産婦人科学講座 准教授

日時・会場

2024年

6月16日(日) 11:00-12:00

第1会場
(天平ホール)

〒630-8013

奈良県奈良市三条大路一丁目 691-1

奈良県コンベンションセンター

共催

第150回近畿産科婦人科学会学術集会



東ソー株式会社

TOSOH

演題名： 卵巣癌マーカーTFPI2の リアルワールドにおけるデータ

座長： 伊藤 公彦 先生 (関西ろうさい病院 副院長, 産婦人科 部長, 遺伝子診療科 部長)

演者： 川口 龍二 先生 (奈良県立医科大学 産婦人科学講座 准教授)

〈内容紹介〉

組織因子経路インヒビター2 (Tissue Factor Pathway Inhibitor-2; TFPI-2) は卵巣明細胞癌の培養上清のプロテオーム解析から発見された卵巣癌の新規バイオマーカーであり、2021年4月に保険収載となった。TFPI2は高い明細胞判別性能を有しており、試薬添付文書には悪性腫瘍と良性腫瘍を鑑別するTFPI2のカットオフ値は191 pg/mL、明細胞癌と非明細胞癌を鑑別するカットオフ値として270 pg/mLと記載されている。

しかし、TFPI2が保険収載となった後のリアルワールドでのTFPI2のデータ蓄積はまだ少ない。われわれは、TFPI2が保険収載されてから2023年5月までの期間に卵巣腫瘍にて手術を行い、病理組織学的診断の確定した124例においてTFPI2の有用性について、CA125と比較して検討を行った。

その結果、良性腫瘍群と境界悪性腫瘍および悪性腫瘍を合わせた群との比較、良性腫瘍および境界悪性腫瘍を合わせた群と悪性腫瘍群との比較、明細胞癌群と非明細胞癌群との比較ではそれぞれCA125、TFPI2ともに有意差をもって鑑別可能であり、明細胞癌群と卵巣子宮内膜症性嚢胞群との比較ではCA125では有意差を認めないもののTFPI2では有意差をもって鑑別可能であった。また術後TFPI2の上昇が卵巣癌増悪を反映していた症例も経験した。これらの結果より実臨床においてもTFPI2は既存の腫瘍マーカー同様に有用であることが分かった。さらに、TFPI2が卵巣癌における予後予測マーカーになりうるかも検討を行い、術前のTFPI2が高値である症例の予後は有意に不良であった。

以上のように、TFPI2は明細胞癌、卵巣腫瘍の良悪性の鑑別する診断マーカーだけでなく、予後予測因子になるバイオマーカーとなりうることがリアルワールドのデータとして明らかとなった。